


学校教育目標

主体的に学び合い 共に高め合う 心豊かな大道っ子の育成

<昨年度の実態>

- 学力調査から
全国、県、市ともに全国平均以上
- ・言葉や文で考えを説明することが苦手である
- ・複数の情報を整理し、結びつけて考える力や目的や意図に応じてデータをもとに自分の考えを書くことが苦手である
- ・活用力は高い
- 「自分の考えをまとめ発表することができる」と回答する児童 66.5%→H30年 69.2%

学校経営の重点	達成指標	取り組み項目	具体的な取り組み内容
 自分の考えをしっかりとまとめ発表できる子どもの育成 (学習・研修部)	・「自分の考えをまとめ、グループやクラスで発表できている子が70%以上」 ・算数の単元末テスト目標点数(朱書き得点総合計)を超える児童70%以上をめざす	学習規律を徹底する	・チャイム着席の徹底を図る ・「聞き方 あいうえお」の徹底を図る ・「話し方 あいうえお」の充実を図る
		基礎学力の定着	・「おおみちタイム」等で計算力・漢字力の向上を図る ・算数を中心に毎時間の終末に「確かめ問題」で更なる定着を図る。
		対話力の育成を図る	・「おおみちタイム」で週一回以上の対話力の向上や声出しの練習に取り組む。 ・ホワイトボード等を活用し対話量の育成を図る ・ペア、グループトークを活用し、対話力を鍛える

学校研究での取組

- 子どもの実態・学力調査の分析結果を日常に活かす
- 新大分スタンダードの視点での授業改善(社会科学習を中心にして)
 - ・課題とまとめの設定
 - ・考えを交流する話し合いの場の工夫・おおみちタイム
 - *ペア・グループトーク
 - *思考ツール
 - *ホワイトボード
 - ・板書の構造化
- 算数単元末少人数指導

家庭の取組

- 家庭学習の習慣化を図る
 - ・低 30分、中 45分、高 60分
 - ・児童アンケートで「目標以上」「目標と同じ」を80%以上にする(H30年1学期 78%)
- 生活習慣の改善を図る
 - ・「決まった時間に寝る」を70%以上にする。(H30年1学期 60%)
 - ・ケータイ・スマホ・ゲームのきまりを守る
- 家庭での体力アップをめざす
 - ・「お家でチャレンジ」シート(上体おこし・長座体前屈等)で、家庭での運動を促す

地域の取組

- 学校教育活動に応じた保護者・地域住民の講師やボランティアを昨年以上に増やす
- 校区公民館との連携した活動
 - ①子どもサロン『公民館夏休み塾・冬休み塾(4年生以上参加・地域の方が講師)』の実施→夏休み 18日間・冬休み
 - ②授業支援…家庭科ミシン・平和学習・昔の遊びやくらし・絵手紙
 - ③環境整備…花壇の整備